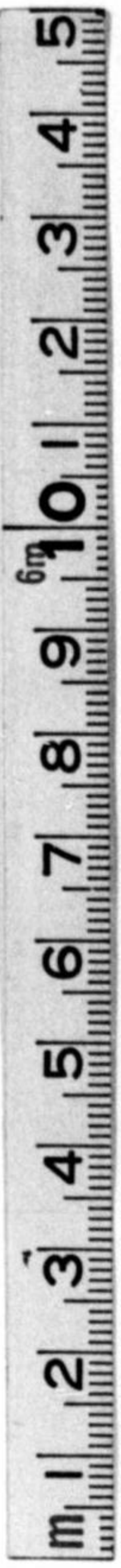


始



83

486



外
2000
あ.



集畫派家印



723
157

3-2050

印象派畫集

マネ・モネ・シスレエ・ピサロ・ルノアール・ドガ
セザンヌ・ゴッホ・ゴッガン・ロートレク・スラー



TOKYO
ATELIER-SHA

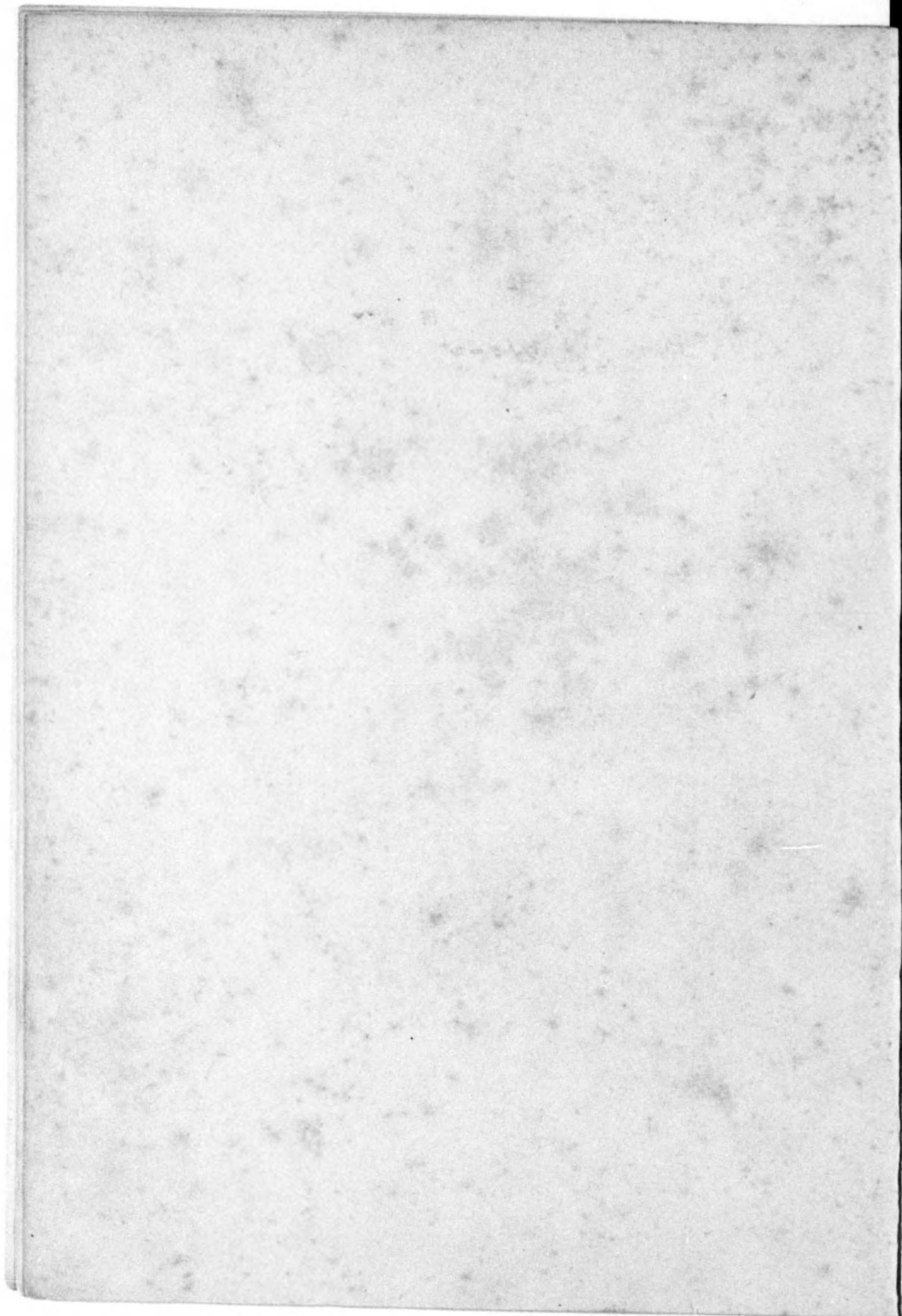


93-456



~~93-456~~

水 浴
ルノアル



欠

欠

西班牙のギタ弾き

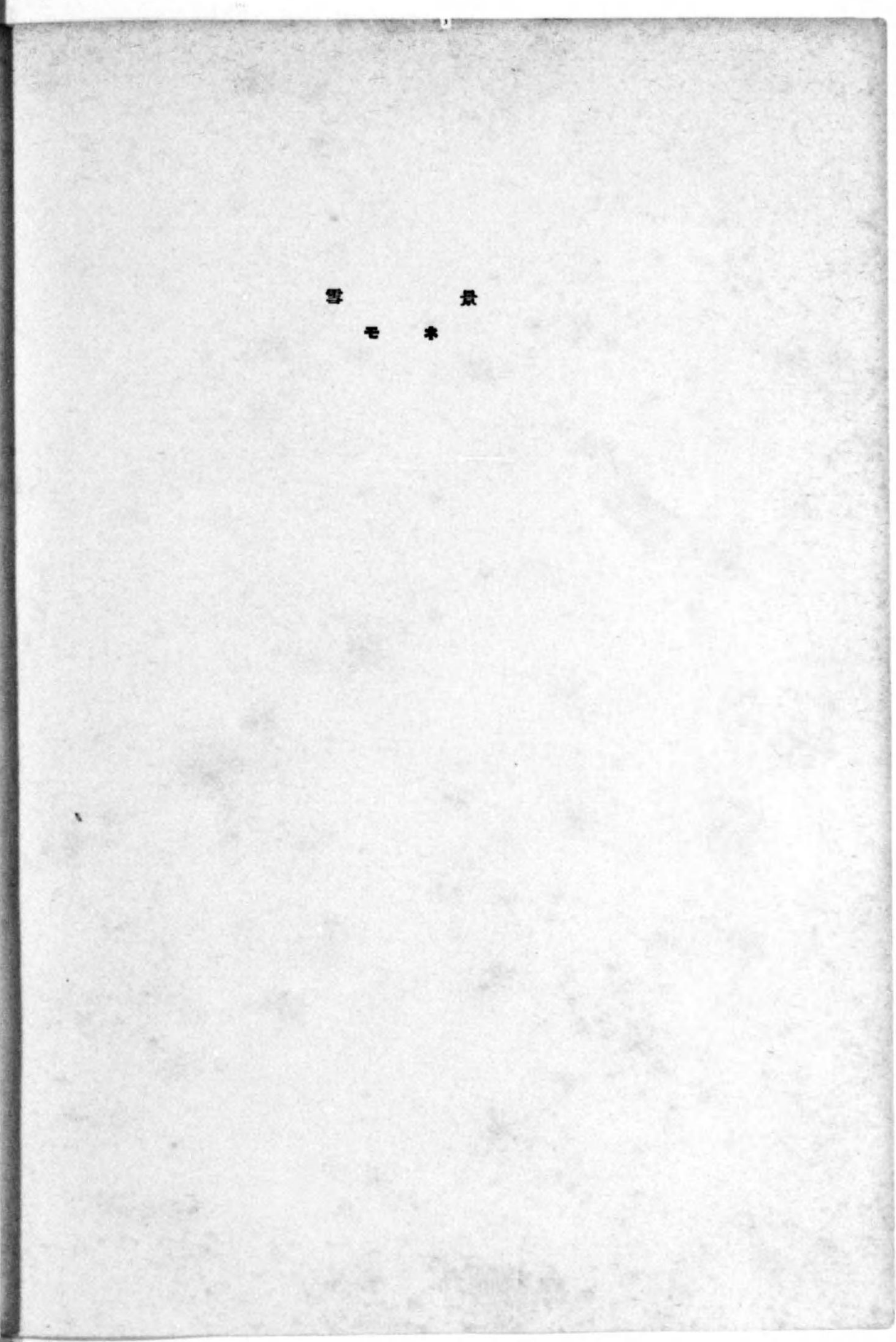
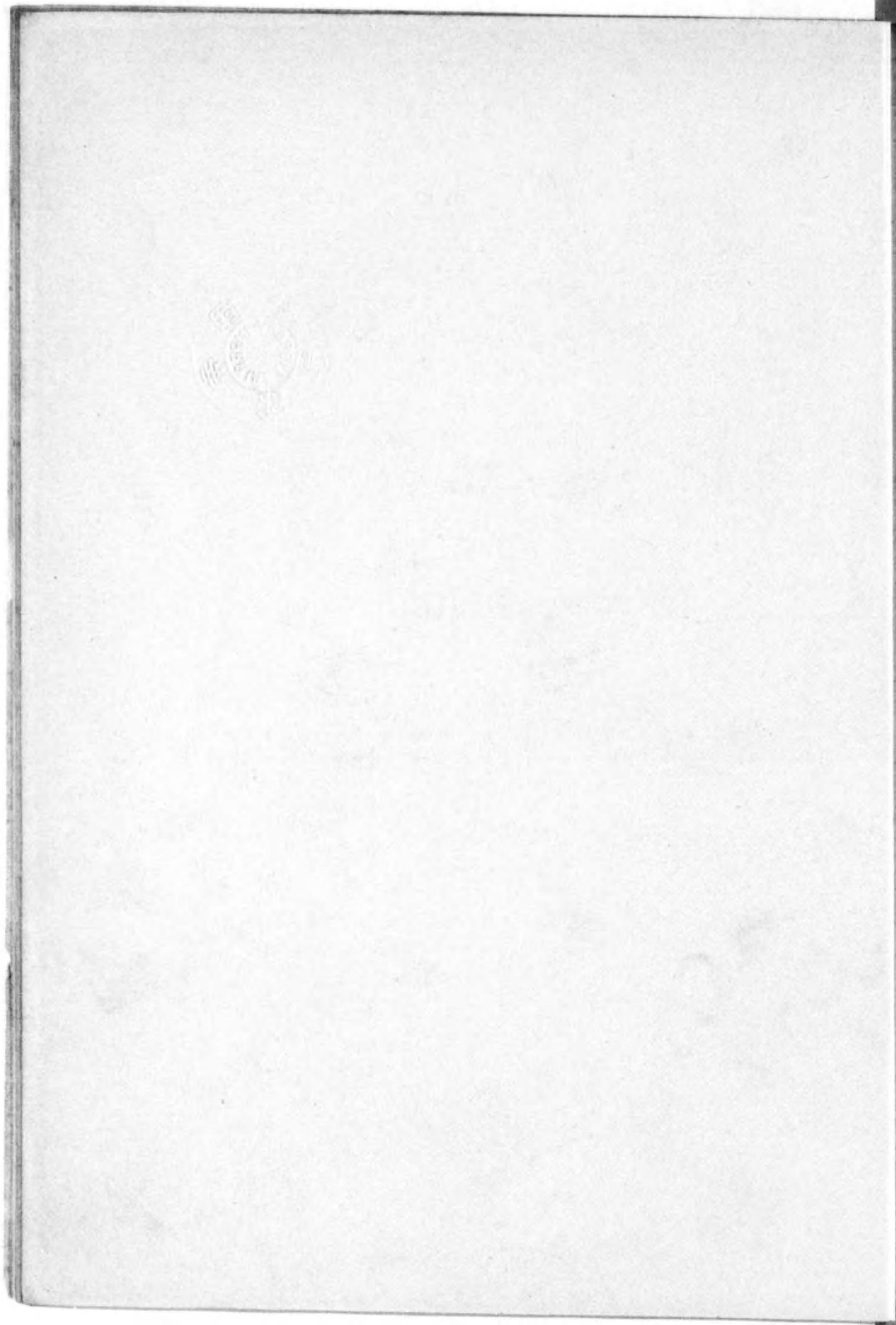
▼ *



西班牙の賭場

▼ *

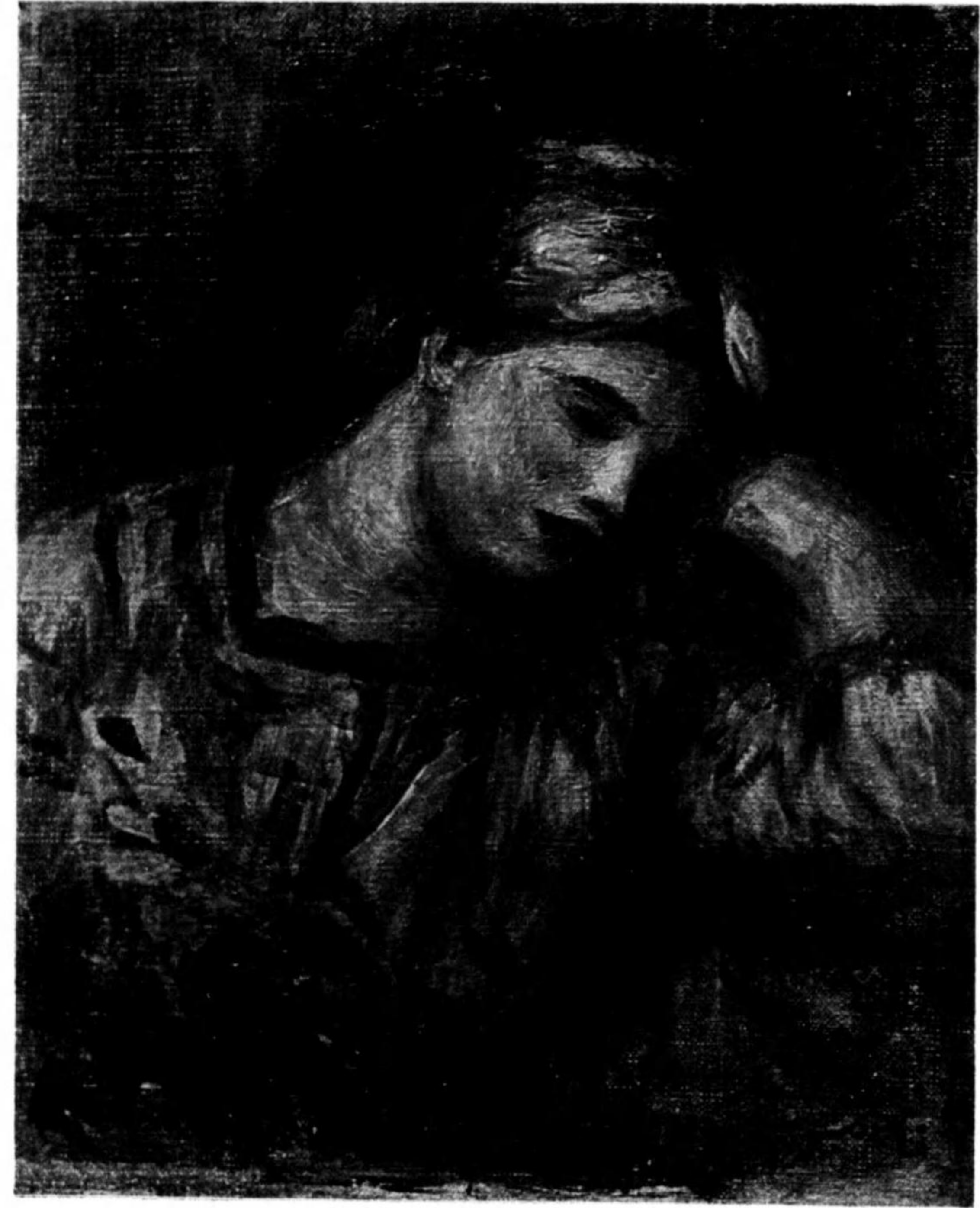






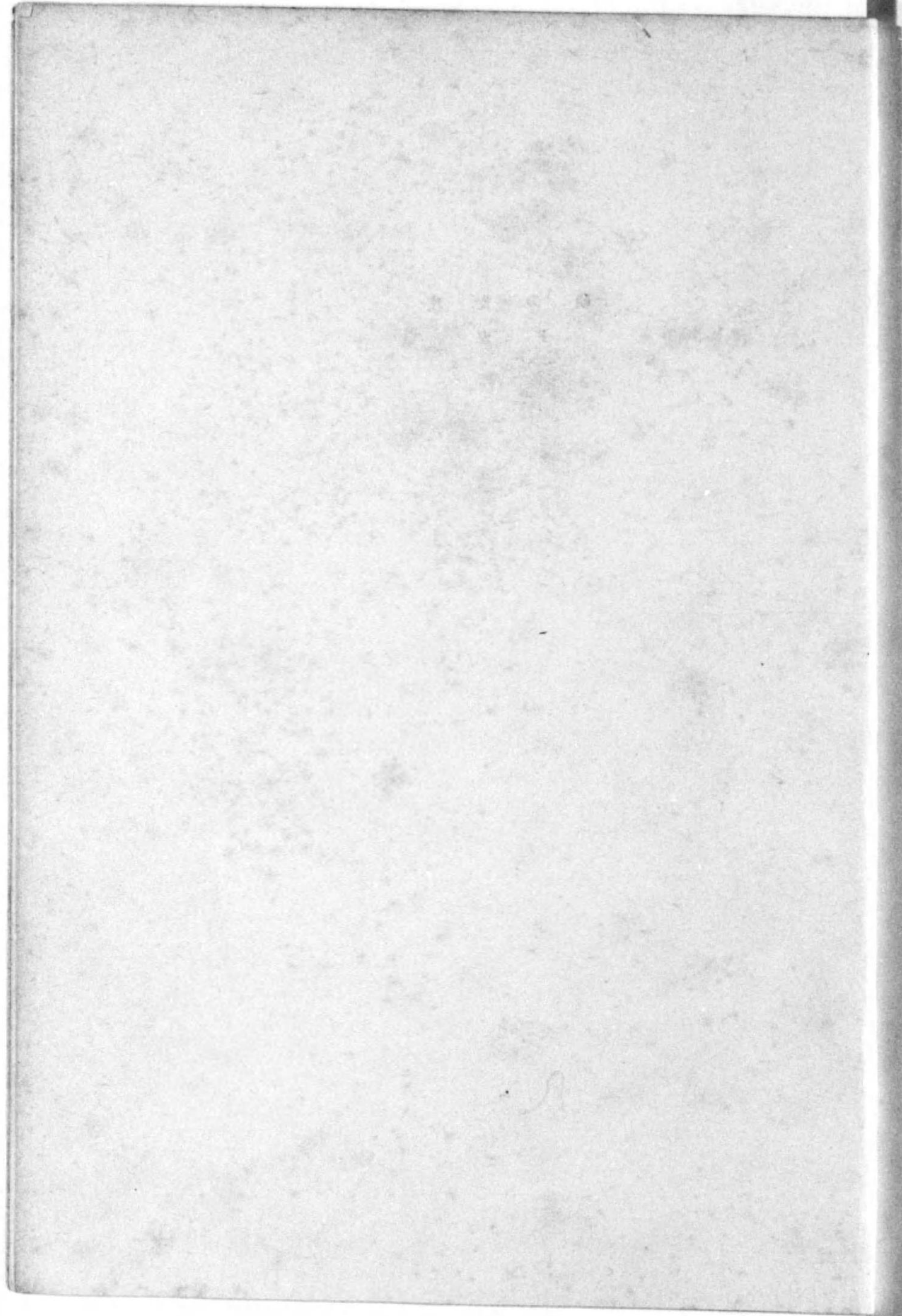
赤福袴の娘

ルノアール





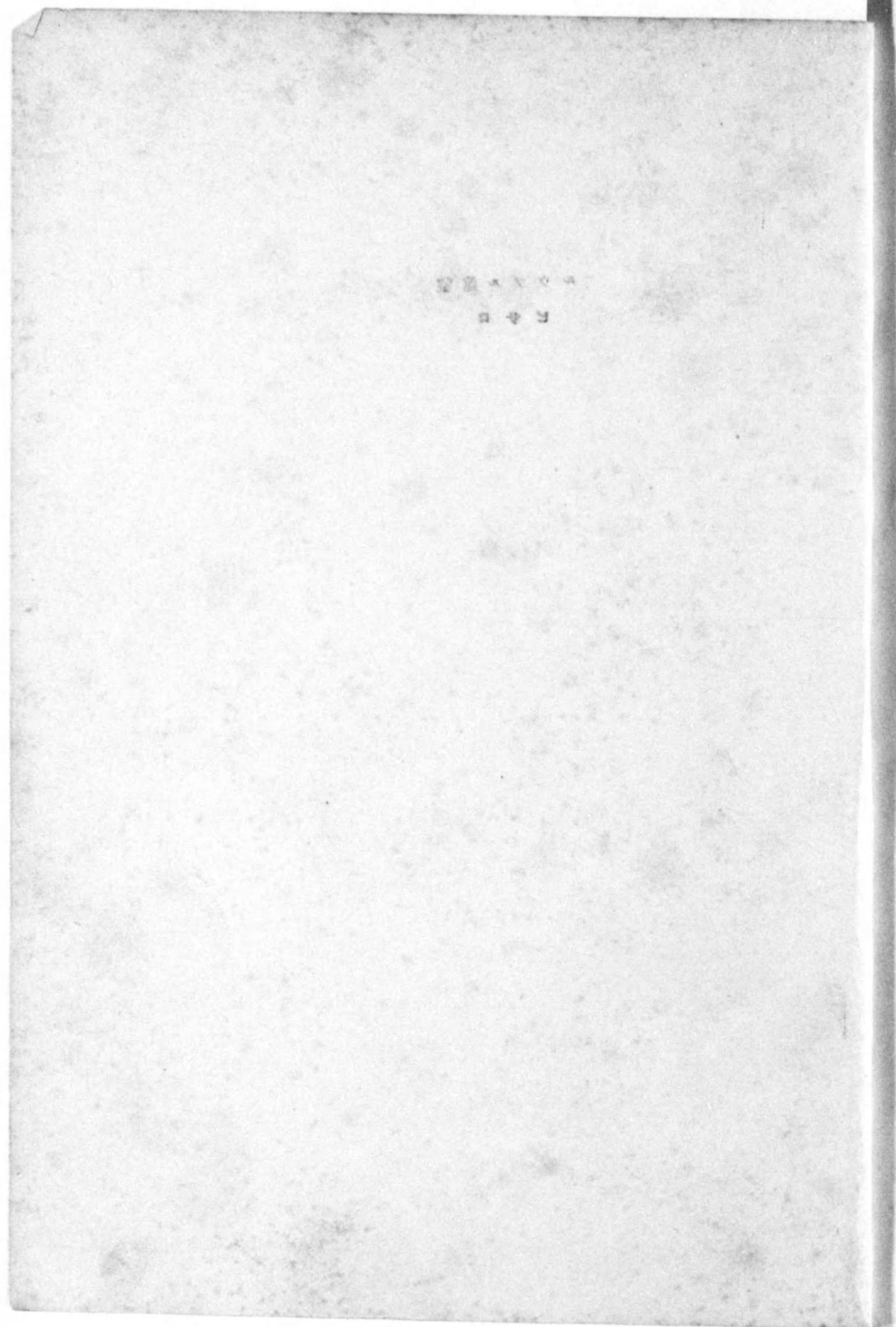
朝 の 支 度
F ガ



欠

欠

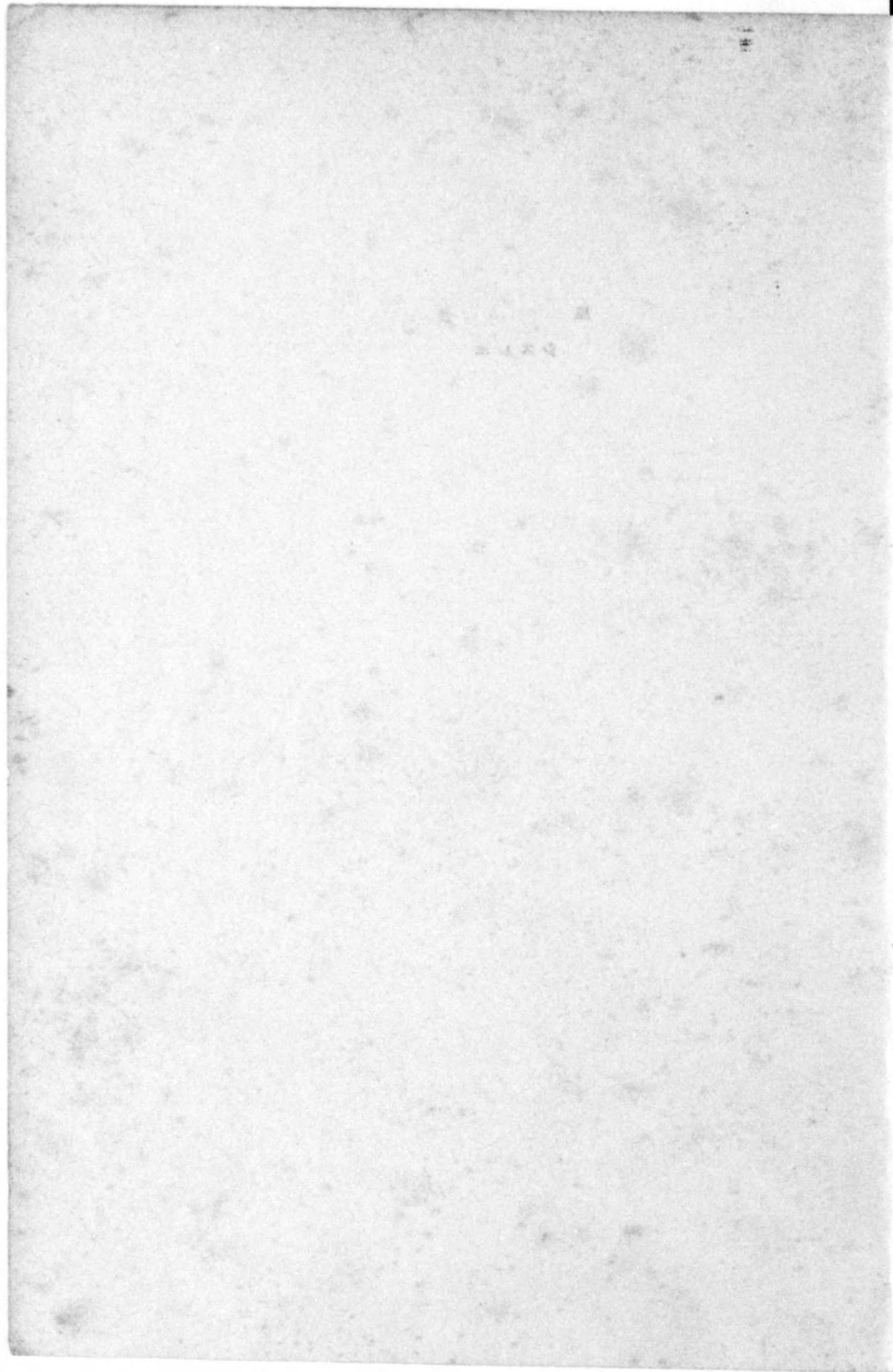
ルウブル遠望
ピサロ



欠

欠

風 景
シスレエ



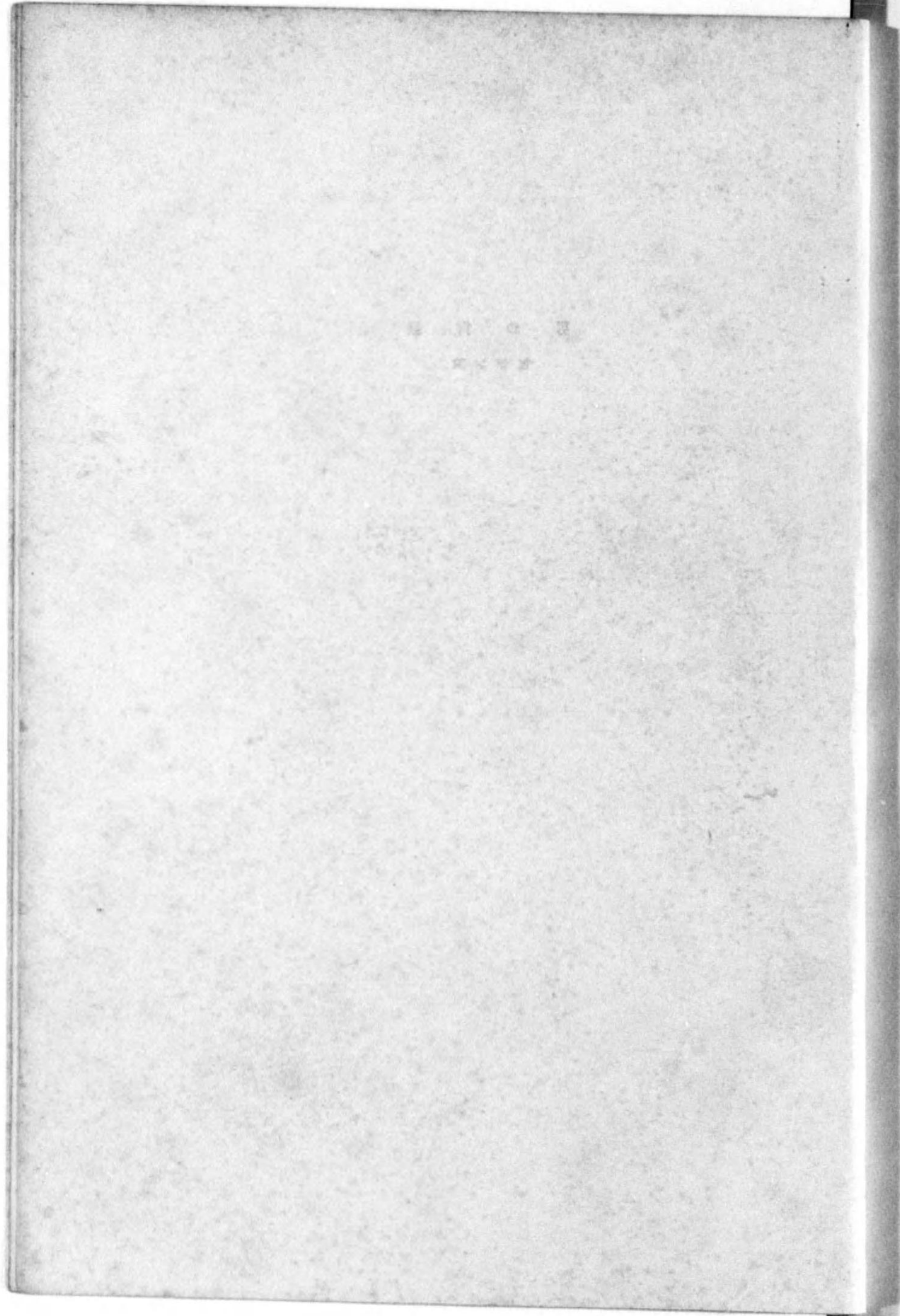
欠

欠

メイ・ベルフォード嬢
ロートレク



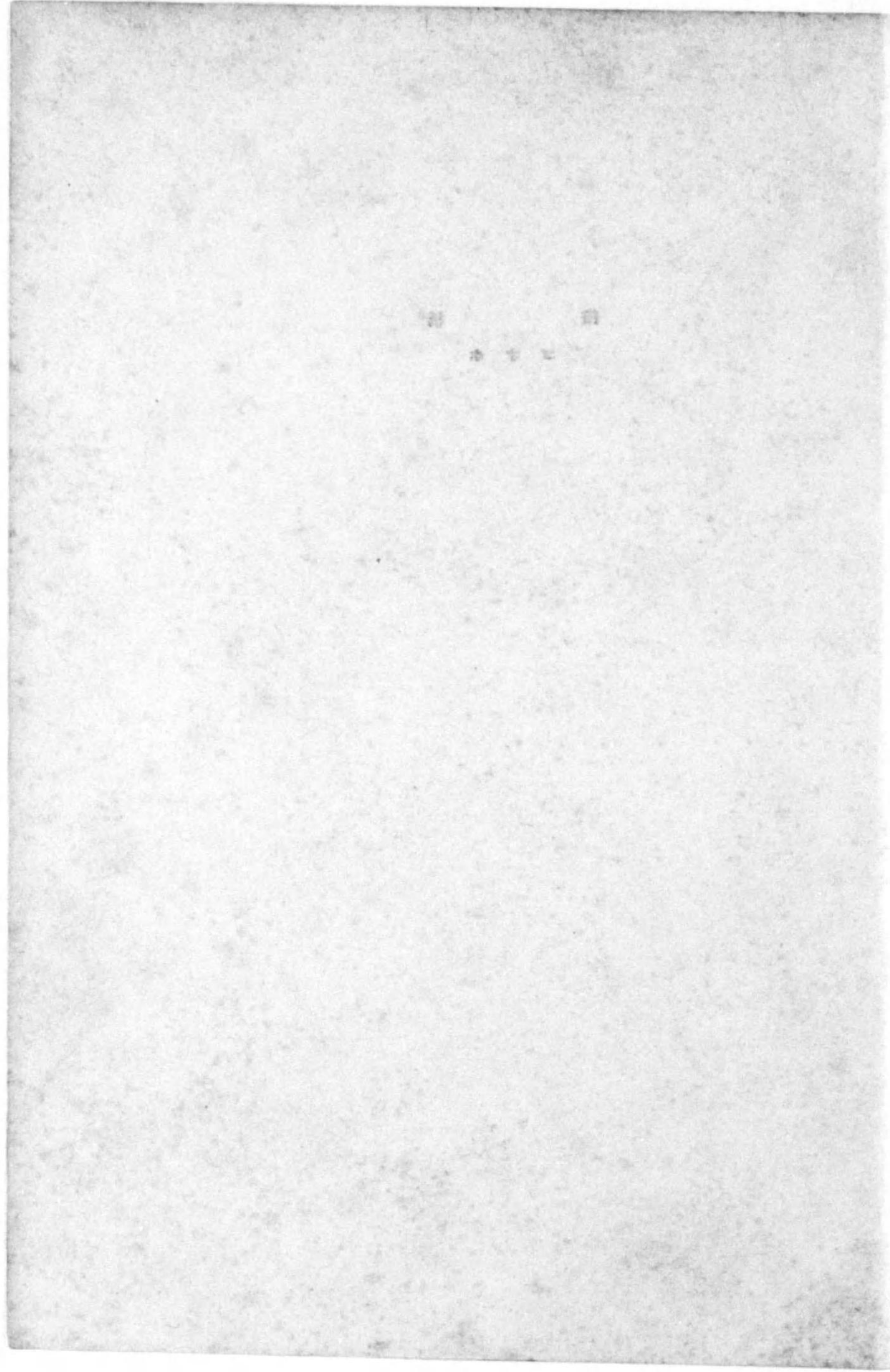
男 の 肖 像
セザンヌ



欠

欠

鐵
工
才
水



欠

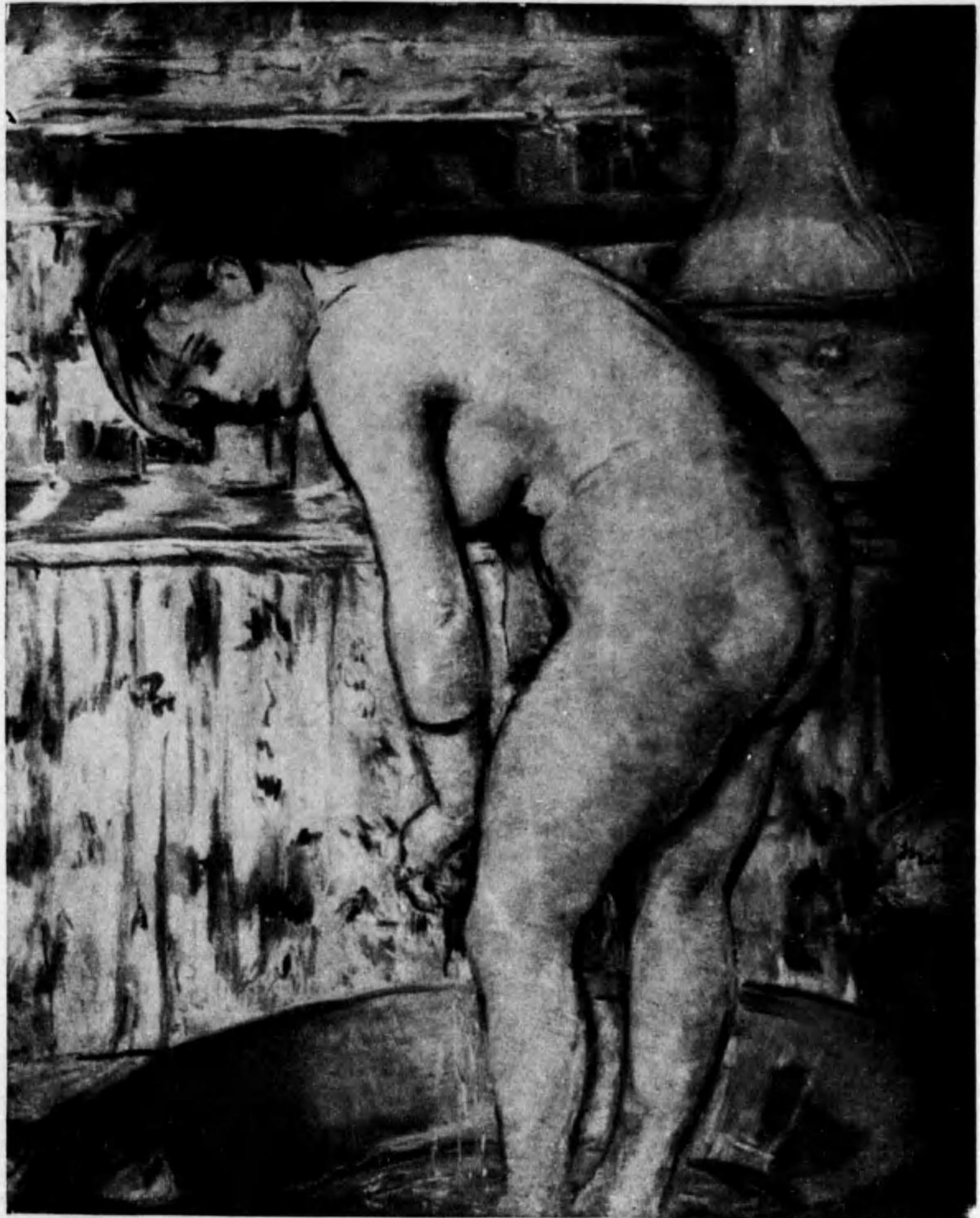
欠

赤い犬のゐる風景

ゴオガン

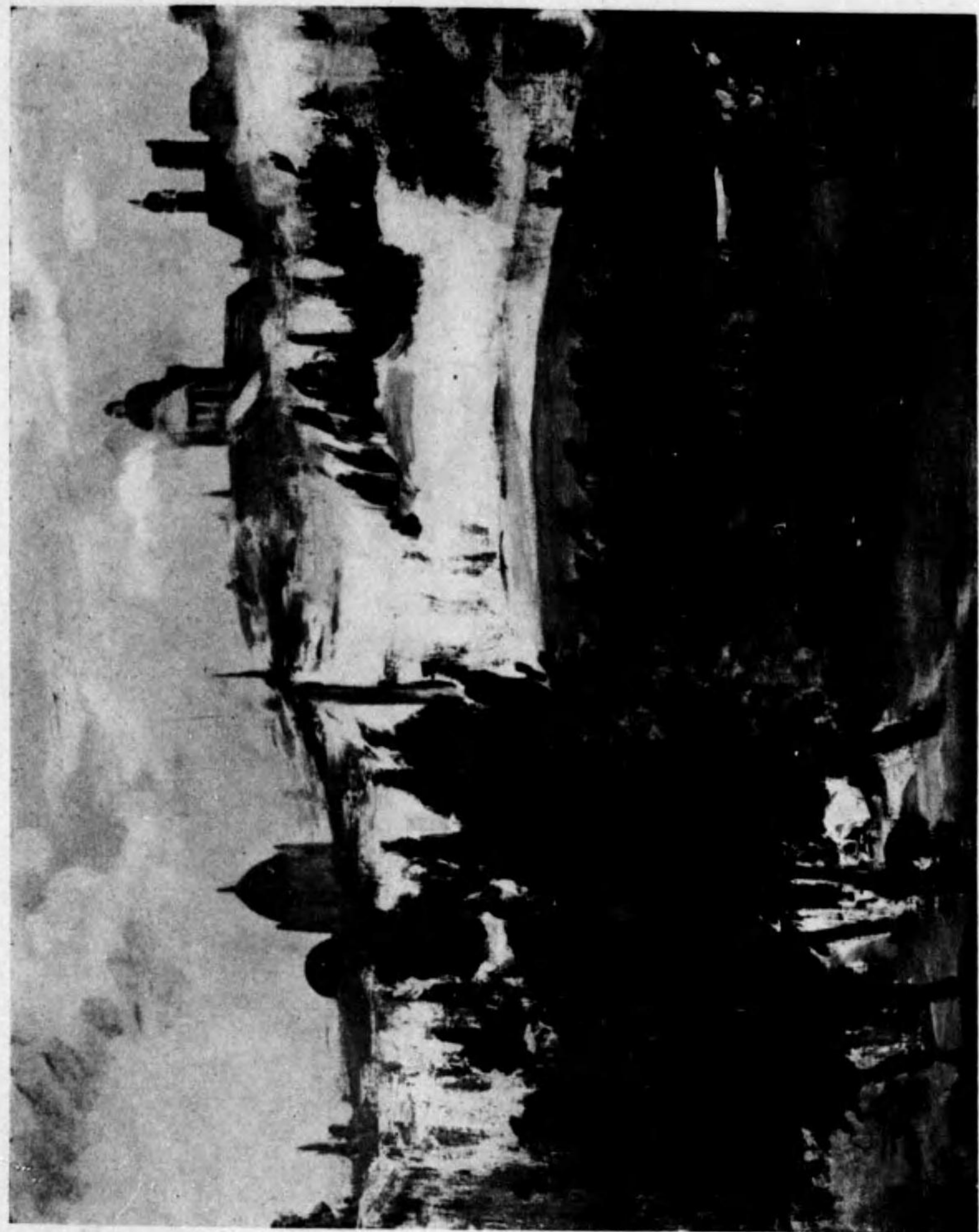
224 6/1/42
- 1075





浴女

▼ 木



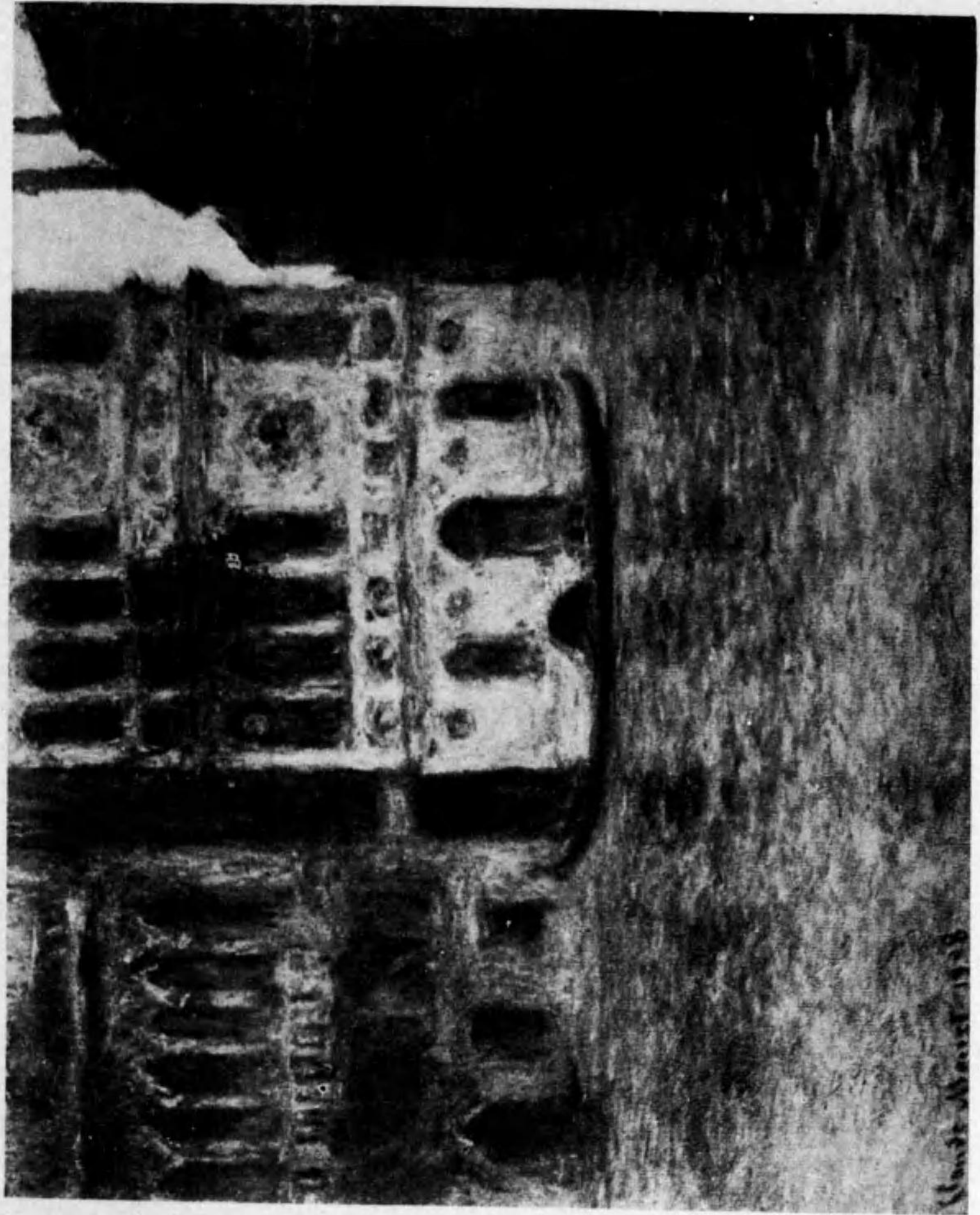
*

非 列



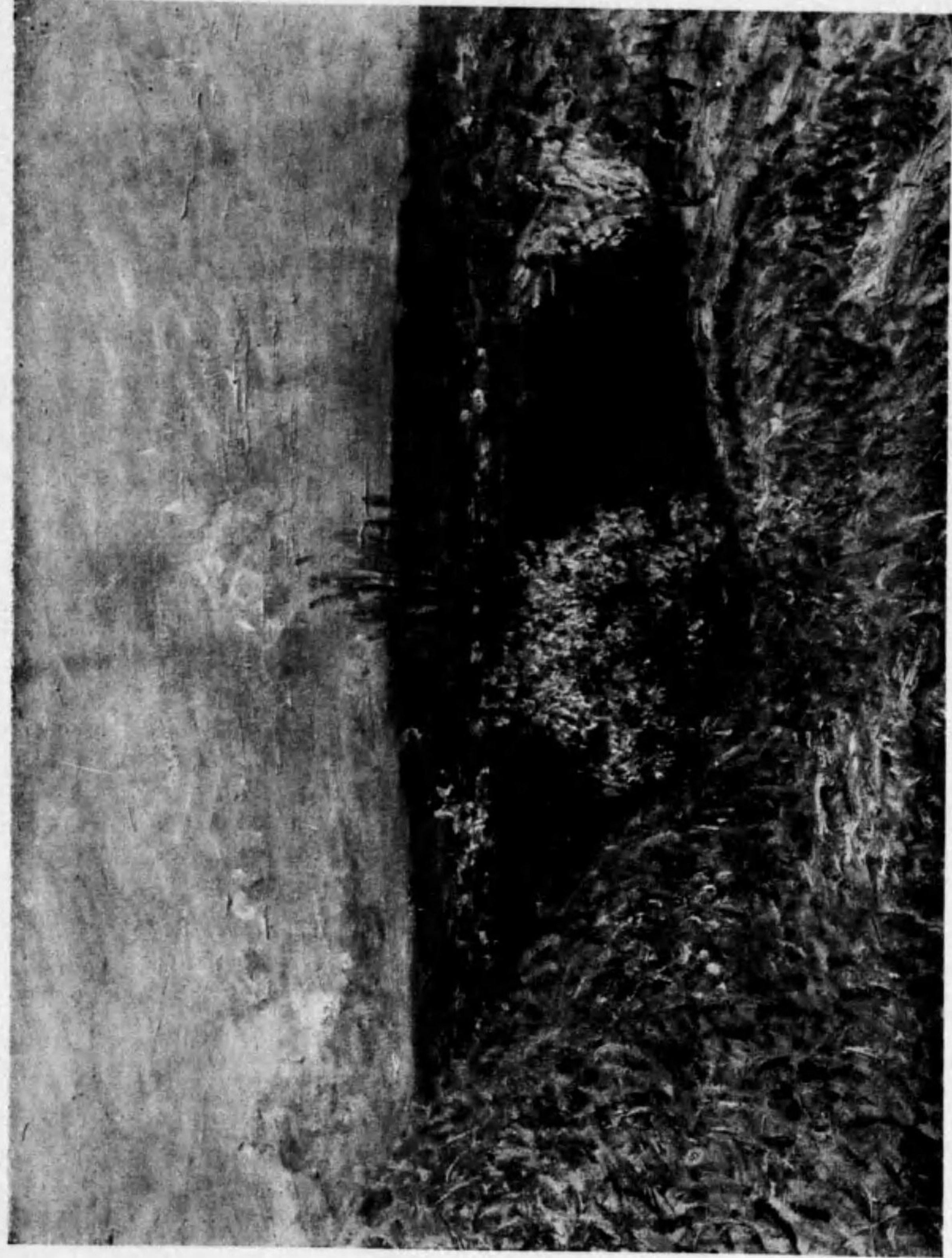
花 園

十 四



+

κ
π
γ



ノリス

モリスの初春



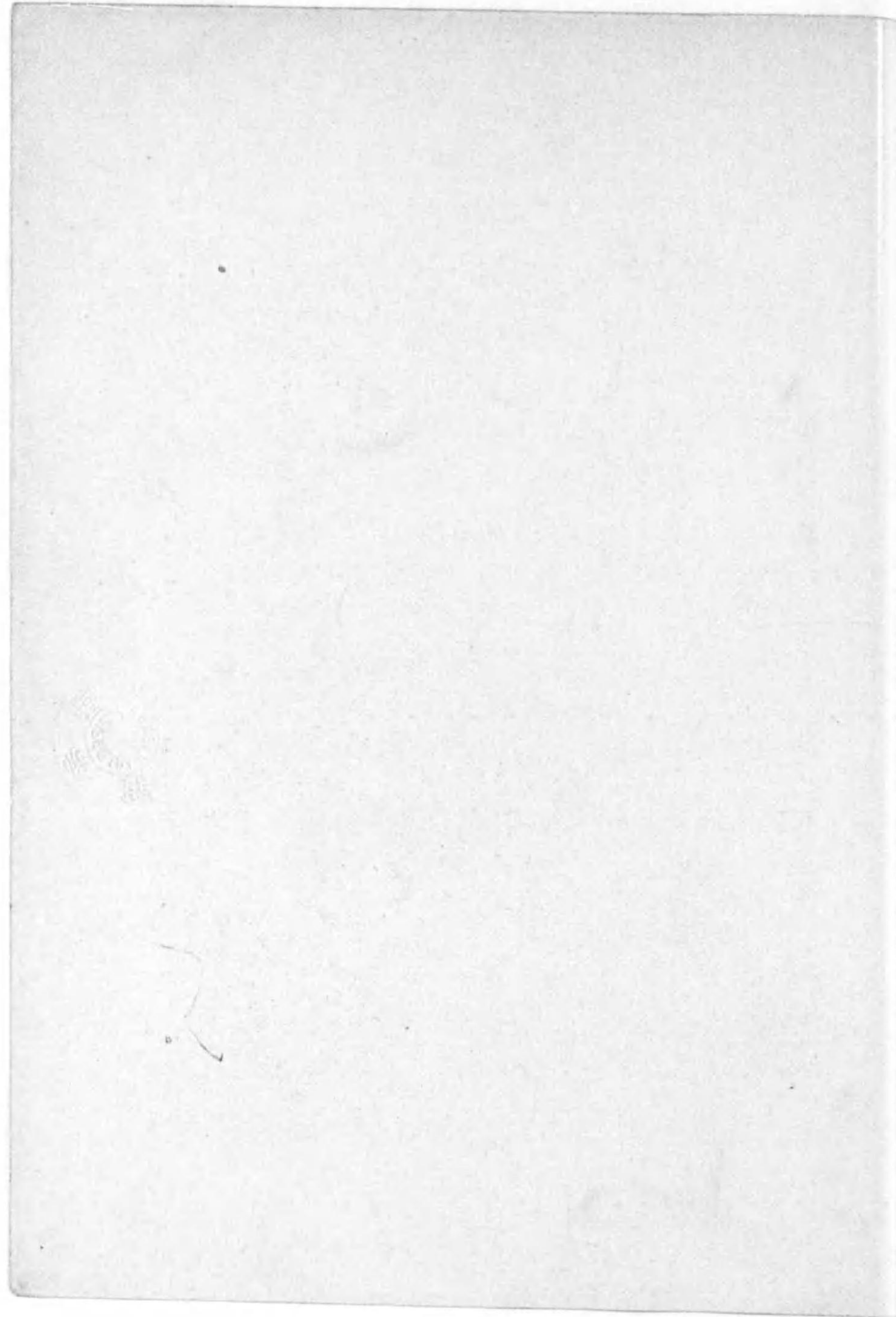
一
ロ
サ
ビ

庭
真



女

洗



山ノ下

風景

Faint, illegible markings or a stamp on the left page.



セザンヌ

エスタック風景

欠

欠



欠

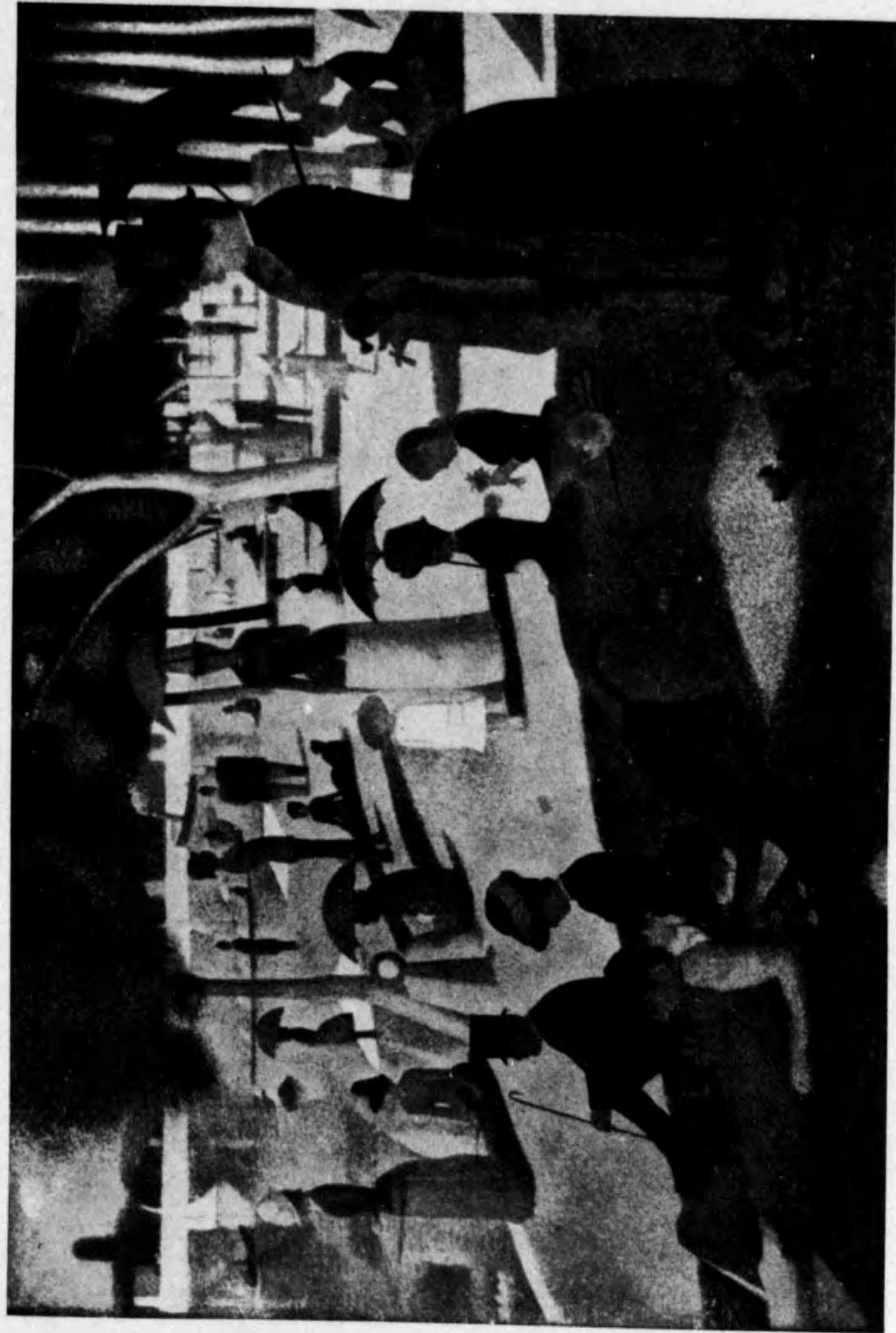
欠



音樂會

ロートレツ





フリータウンの夏の日曜日

ス 7 -

印 象 派

正 宗 得 三 郎



印象派 (L' impressionisme) と云ふ名稱は、彼等自ら稱へ出したものではない。

千八百七十四年春、三十九名の畫家、彫塑家、版畫家等が無名協會の基に巴里市ブ、ルア、ル・ド、カピュシンの寫眞屋を借りて展覽會を開催した。その展覽會の出品畫の中に、クロオド・モネのアンプレシヨ・ソレユ・ルザンと題する、(日の出の印象) 港の日の出を寫した畫があつた。この展覽會を押捺するに思ひつきだと思つて、諷刺新聞のシャリアリ紙が第一に、諷刺的に印象畫家の展覽會と云ふ見出しでひやかし半分に書き立てた、公衆は面白がつて印象派だと云つて笑つた。處がこの印象派と云ふ皮肉の名稱が何處か適評の意味も含んでゐるので、當の畫家達も便宜上用言としたのである。

この印象派の展覽會は、千八百七十七年再びこの群の人達に依つて開催された。公衆は更に嘲笑して、おい、もう止せよと叫んだ。

この展覽會の第一回の時にはマネは出さなかつたが、モネ、ルノアル、シスレエ、セザンヌ、ピサロ、ギヨ、オマン、モリソ、ドッガ、ラツ、シユ、レビン等が出品したのである。

印象派の名稱の起つたのは、斯の如き意味からである。

この印象派の畫家達の作品が世間に嘲笑されても、他の畫家達の反感と讒謗を買つても、その畫の論理と、新趣味の表現は、やがて公衆に興味を抱かせ、畫界にもいつとはなしに認められ、遂に總ての流派の描法の中に流れ込んだ。その事に就いてルノアルは悪口を言つてゐた、畫家達迄がついて來たと談つてゐる。

彼等印象畫家は、發見せられた自然直寫より得來る興味に、日に日に自然を目標に突進した。印象派が今日成功したのは、各自に實際の力と努力があつたのと、一つは彼等の群がよかつた事も彼等を奮起させた。そして彼等は自然直寫から、特殊の手法

を獲得した。嘗て美術史上にない、感情傳達法を得た。その事は吾々が、古今の藝術を蒐めてゐる、ルーヴル美術館を見廻つて、カモンド伯のヌ、ベル・コレクションの印象派の室に這入つた時位、畫面の異つてゐる事を感じさすものはない。

然し印象派が、マネの寫實、モネの天才に頼つて創造されたと言つても、それまでに佛蘭西の畫壇が印象派を生む迄に迫つてゐた事も考へねばならぬ。コロオ、ミレエ、クウルベ等の自然派、又寫實家の仕事はやがて印象派を生む、元動力となつてゐた事を察せねばならぬ。

印象派畫家の開拓した、自然描法は日に日に傳統の手法より離れて、自然の氣息に従つた。従つて筆觸のリズム、又畫面の盛り上げも平気で自然を追求した。空間の美を描き遠近の調子を確め、そして生き活きとさせた。そして一方十九世紀の化學、物理の文化が直接でなくとも、間接に彼等に自然を活して見る眼と、畫面の色彩分列法に保證と自信力を與へた。

印象派に対する今日の不満も、單に時代の變化に過ぎん。何となれば、印象派それ自身は絶對的のものであるから。丁度東洋畫に於ても同じ意味で、南宗には南宗の樂んだ天地があり、又北宗には北宗の天地がある。常に藝術には一つの向つた意味を語ればよいのである。

私は日本人として、歐洲の畫廊を廻つた、そして印象派の藝術が近代の爲めか、その畫面を味ふ感じが吾々東洋人に快い事を切に感じた。恐らく以後東洋人は益々印象派を好むと信ずる。第一私が親しむ。

所謂印象派にも、前期印象派、後期印象派、新印象派、の別があり、又前期印象派となつた人の中に於ても一人一人各自、独自の境地があるのは當然だ。普通マネ、モネ、シスレエ、ピサロ、ド、ガ、ルノアル、ロオトレックを前期印象派と云つてゐる。人によつて、ト、ガ、ロオトレックは印象派でないと言ふ人もある。又眞の印象派はモネ、シスレエであると論ずる人もある。そしてセザンヌ、ゴッホ、ゴッガン、マチス等を後期印象派と稱へてゐる、シンニヤク、スラア、クロスを新印象派と呼ぶのである。

印象派畫集 目次

■ 水 色 版	1
オウギュスト・ルノアル	
西班牙のギタ弾き	2
エドアル・マネ	
西班牙の踊場	3
エドアル・マネ	
雲 景(黒木三次氏蔵)	4
クロオド・モネ	
赤 襦 袢 の 娘	5
オウギュスト・ルノアル	
朝 の 支 度	6
エドガア・ドガ	
ルウブル遠望(一九二六年日佛展出品)	7
カミイユ・ピサロ	
風 景(黒木三次氏蔵)	8
アルフレッド・シスレエ	
メイ・ベルフ・オード嬢	9
アンリ・ド・ツウルウズ・ロートレク	
男 の 肖 像	10
ポール・セザンヌ	
鐵 橋	11
ヴィンセント・ヴァン・ゴッホ	
赤い犬のゐる風景	12
ポール・ゴッガン	
■ 浴 女 版	1
エドアル・マネ	
葬 列	2
エドアル・マネ	
花 園	3
クロオド・モネ	
ベ ニ ス	4
クロオド・モネ	
モレエの初春	5
アルフレッド・シスレエ	
裏 庭	6
カミイユ・ピサロ	
洗 濯	7
エドガア・ドガ	
風 景	8
オウギュスト・ルノアル	
エストツク風景	9
ポール・セザンヌ	
狂 人 の 顔	10
ヴィンセント・ヴァン・ゴッホ	
タイチの女	11
ポール・ゴッガン	
音 楽 會	12
アンリ・ド・ツウルウズ・ロートレク	
グランド・ヂ、ツットの夏の日曜日	13
ジョルジュ・スワラ	
印象派	正宗得三郎
■ 諸 家 年 表	

諸 家 年 表

MANET (Edouard)

エドアル・マネは千八百三十二年一月二十三日巴里に生れ千八百八十三年四月三十日巴里に死す。

*

MONET (Claude)

クロード・モネは千八百四十年十一月十四日巴里に生る。今シヴルムイに隠栖してゐる。

*

RENOIR (Auguste)

オギュスト・ルノアールは千八百四十一年二月二十五日リモージュに生れ千九百二十年南方佛蘭西カヌウにて死す。

*

DEGAS (Edgar)

エドガア・ドガは千八百三十四年巴里に生れ、千九百十七年巴里に死す。

*

PISSARRO (Camille)

カミユ・ピサロは千八百三十年七月十日植民地、セント・トマ島に生れ、千九百三年十一月十三日巴里に死す。

*

SISLEY (Alfred)

アルフレト・シスレーは千八百三十九年十月三十日巴里に生れ、千九百九年一月三十日モレムに死す。

*

LAUTREC (Henri de Toulouse)

アンリ・ド・トゥルーズ・ロオトレクは千八百三十九年十月二十四日アルビに生れ、千九百一年夏巴里に死す。

1

*

CÉZANNE (Paul)

ポール・セザンヌは千八百三十九年一月十九日、プロヴァンス州エクスに生れ、千九百六年十月二十三日同じくエクスに死す。

*

GOGHI (Vincent Van)

ヴィンサン・ヴァン・ゴッホは千八百五十三年に和蘭に生れ、千八百九十年七月二十八日佛蘭西に死す。

*

GAUGUIN (Paul)

ポール・ゴッギャンは千八百四十八年六月七日巴里に生れ、千九百三年五月八日南洋マルケサス島に死す。

*

SEURAT (Georges)

ジョルジュ・スーラは千八百五十九年十二月二日巴里に生れ、千八百九十一年巴里に死す。

2

日附訂正

昭和十二年十二月十五日印刷 印象派畫集
 昭和十三年十月十日發行
 東京市牛込區喜久井町三四
 編輯發行者 北原義雄
 東京市赤坂區田町一ノ十五
 印刷所 日本美術寫眞印刷所
 東京市牛込區西五軒町三四
 印刷所 日能製版印刷所
 東京市牛込區西五軒町三四
 印刷所 福山印刷所
 東京市牛込區喜久井町三四
 發行所 アトリエ社
 電話牛込六四二一・銀座東京六六〇〇二

定價金一圓八十錢

普及版

內容

版色原
 (分部) 胎受母 聖
 女處の 嚴最
 藝晚の 後モ
 ザリ・ナ

版眞寫

拜來の士 博
 分部 上 上 上 同
 分部 部 部 部 同
 分部 部 部 部 同
 分部 部 部 部 同
 (使天) 分部「女處の 漢沙
 (稿草) 描素 上 同
 (顔の督基) 描素 髪晚の 最取
 (-ビツコ) 分部 上 上 同
 (同) 分部 上 上 同
 (同) 分部 上 上 同
 (部頭のダニ) 描素 上 同
 ナンア 聖と 子母 聖
 (部頭のナンア聖) 分部 上 同
 描素 上
 (部頭のナンア聖) 描素 上 同
 (?部頭のナンア聖) 描素 上 同
 描素「戦のリアヤン」
 描素「ハ」の 體 洗
 描素「像チビダ」の ロキツロベ
 描素「アスダ・ラベサイ」
 描素「子母 聖るて立」
 描素 の 物 着
 描素 體 標
 描素 景 風
 (描素) 像 馬 騎 の ノラ
 (描素) ヲ ス テ ロ ケ
 記
 傳抄チンギ・ダ
 筆執氏厚博田高

レオナルド

古典藝術

ダギンチ畫集

眞隨

畫道の最も本格的眞隨は古典に仰がねばならぬ。レオナルド・ダギンチの雄頭にして一糸亂れざる畫筆は、將に神に入れるもので、今人の達し得べき境域でない。其藝術的魅力、茫然たる迫力は、千古不滅を物語る。近代に至つて愈々なほ、多くの畫人が古典藝術への眞仰を、レオナルドに多く向けることは、蓋し彼の中に超時代的偉大な力を湛えてゐるからであらう。彼の代表的業績は悉く收め、又彼の抄傳は高田博厚氏の見識ある一文によつて要を盡くしてゐる。

裝美・判倍六四
 葉四・版色原巧精
 葉十三版眞寫明鮮

定價五圓拾錢
 送料市内二十錢・外地方八錢

アトリエ社 東京市牛込區久井町三四
 電話牛込四六一・銀座東京六六〇〇二

長谷川昇滯歐作品集

定価一圓八十錢
送料市内十二錢
地方十八錢

判倍二六四
序文 アンドレ・サルモン
一 感想 小杉放庵
交友昇君 森田恒友
長谷川君の仕事 山本 鼎

原六) オペラに於けるブルガーク
色 小 想 手
原(著)レクチュール 二 裸 鏡
原(著)二) 裸體・ソファ・笑む少女・アンドレ・サント・青
原(著)十) カツエ・少女・若き女・家産・赤髪の子・少年・ルボオ・本見る
原(著)女(著者何れ)

現代佛蘭西名家畫集

定価一圓八十錢
送料市内十二錢
地方十八錢

判倍二六四
正宗得三郎編
ボナール・マチス・ピカソ・ドラ
ブラック・シニヤツク・ドユワイ
スゴンザツク・ルオール・ユトリロ
ローランサン

原十) 帽子を被れる女(ボナール) 風景(ボナール) カルタ
原(著)ニ) カソ 赤い歌物のある野物(ピカソ) 金魚(マチス)
原(著)ニ) 西班牙風俗の女(マチス) アネネ(ドユワイ) 動物
原(著)十) 風景(ボナール) 魚(マチス) 林間(マチス) 泉
原(著)二) 女君(ローランサン) 女の肖像(ドラ) 肖像(ドラ)
原(著)ニ) 風景(スゴンザツク) 風景(ユトリロ) 山嶺の城
(ルオー)

梅原龍二郎畫集

四六二倍判・原色版十巻・寫眞版十六巻

原色版 ▲自費像▲巴里の女▲熱湯▲ナルシー
ス▲ヘスビオとナポリ▲背磁に型リン
ゴ▲秋山▲臥裸婦▲江ノ浦▲晝の菊
原 畫 ▲女の像▲洗足裸婦▲モレ一▲讀書婦
▲ナポリ▲首飾り▲袴▲座禪婦▲座禪
婦▲南歐風景▲座禪婦▲座禪婦▲座禪
婦▲座禪婦▲江ノ浦の家▲江ノ浦の山

普及版

定価各一圓八十錢
送料市内十二錢・地方十八錢

東京牛島町三丁目
電話牛島六四二二番
郵便東京六六〇二番

アトリエ社

石井柏亭畫集

四六二倍判・原色版十巻・寫眞版十六巻

原色版 ▲荷蘭の子供▲ガンの畑▲河豚湖▲
野▲老太夫▲外套を着たる夫人▲ナボ
リ湖▲アスジの春▲曇日——▲ヴェ
トイユ▲湖岸の夕
原 畫 ▲運河に沿へる並木▲机邊▲ボンヤ
と其寶物▲紅蓮▲農園の一部▲團扇を
持てる女▲茂木翁像▲伊豆山▲裸體習
作▲サンモツシエル橋▲リツチモンド
▲O夫人像▲ソレント▲T女史の像▲
自稱の入江▲工橋

序文(レオンヌ・メナツト氏)・自序

電話六六〇二番
東京牛島町三丁目
郵便東京六六〇二番

アトリエ社

東京牛島町三丁目
電話六六〇二番

ミレエ畫集

新装★普及版

美装葉傳
判版四十略
倍版三エ
六色版レ
四原寫ミ

原色版
尼の馬「ベルベル」
野森の葉傳

ミレエの作品に接して、その嵩高深玄なる田園牧歌の神韻に心打たれざるものがあるか。彼の藝術は遠く今日に於いても世界衆民によつて普く親しまれてゐる。温き愛を以つて自然と人生の嚴相を寫し、その寫實主義の正道は美術史上に期を劃し、又彼のデッサンに至つては古今無比の名筆として類を斷つ。ミレエの藝術に三嘆を惜しまざる者は、先づ此畫集を備へ置かれない。

定價一圓五十錢
送料
市内
地方十二錢

東京市牛久保區喜久井町三四
電話

アトリエ社

東京市牛久保區喜久井町三四
電話

アトリエ素描選集 第一輯

ドラクロア 素描集 EUGÈNE DELACROIX

四六倍判・上製・典雅美装

内容

習作.....	1	イタリーを撃滅するアツタイワ.....	16
馬のクロツキイ.....	2	クロツキイ.....	17
馬の習作.....	3	ピレネー山脈の山人.....	18
ヒエレー夫人.....	4	印度人の習作.....	19
彌撒を賑へるリシユルヌ.....	5	シヤルネ・ドラクロア將軍.....	20
皮を剥がれた虎による習作.....	6	樹木の習作.....	21
ヴァルモンド風景.....	7	舟の習作.....	22
ザン・シルヴェストル.....	8	花の習作.....	23
クロツキイ.....	9	ストラスブルグのオティツク彫刻.....	24
モール人.....	10	アツタン.....	25
メキネエの想ひ出.....	11	希臘の士官.....	26
マホメット.....	12	習作.....	27
若きモロツコ婦人.....	13	習作.....	28
ゴブマン・ハーストの隠者.....	14	習作.....	29
天才の勝利.....	15	虎のクロツキイ.....	30

定價 1.50
送料
市内0.12
地方0.18

東京市牛久保區喜久井町三四
電話

アトリエ社

普及版

ゴオホ畫集

世界藝術史上に於いて、眞に天才の名を以つて稱ばるゝ者、わがヴァン・ゴオホこそ其匹頭に屈指さるゝであらう。彼は心血を以つて畫布を塗り、自然の體熱を筆中に移し、烈しき動脈をその畫中に波打たせた。彼の繪畫に於ける自然の容姿と詩的情景は、快適なる感覺の刺戟を以つて観る者をして激しく壓倒せしむる。代表作と傑作を收めたる此畫集によつて彼の藝術に飽くなく陶醉せられよ。

四六倍判美術・原色版四葉・寫眞版三十葉・ゴオホ略傳

東京市牛込區喜久井町三四

アトリエ社

振替東京六六〇〇二番
電話牛込六四二一番

定價 1.50

原色版		
自畫	畫	像
ズア	一日	兵
向レ	朝	病
題	題	院
寫眞版		
自畫	畫	像
ズア	一日	兵
向レ	朝	病
題	題	院
原色版		
自畫	畫	像
ズア	一日	兵
向レ	朝	病
題	題	院

普及版

ルノール

畫集

古今婦女の裸形は最も魅力に富む畫題として扱はれ來つたが、ルノールの作に見る如き甘美優麗、濃艶幻想の豊かなるものはない。色彩は寶玉の輝きがあり、純粹なる畫家的官能は、後期印象派作家中、比類がない。傑作は凡て本集に依つて收め盡されてゐる。

東京市牛込區喜久井町三四

アトリエ社

振替東京六六〇〇二番
電話牛込六四二一番

原色版

自畫	畫	像
ズア	一日	兵
向レ	朝	病
題	題	院
寫眞版		
自畫	畫	像
ズア	一日	兵
向レ	朝	病
題	題	院
原色版		
自畫	畫	像
ズア	一日	兵
向レ	朝	病
題	題	院

四六倍判・原色版四葉・寫眞版三十葉・ルノール略傳

定價一圓五十錢
送料市內五十二錢
地方八十二錢

最新刊の最良の油畫實習書

油畫の研究

四六判・上製美装・定價一圓二十錢
四十講目・二十五氏執筆・口繪原色版八葉

こゝに集められた各講目は何れもアトリエ誌上に掲載せられた、油畫實習上に関する頗る有益なる文字である。適當なる按配を以つて編成され、一體となつたこれだけの講目がある。油畫研究者に正しき教導を務むるに、十分な講座として役立つであらうことを確信する。讀者は本書によつて、現代洋畫壇の諸大家より親しく聞くの思ひを以つて、その懇切にして貴重なる講話から多くを學び、研究せられたい。敢て諸君に自薦する良書の一つである。

美術家を志す人へ	山本 鼎	油繪と新様	山本 鼎
初學入門の人達に	萬 鐵 五 郎	都會とその風景畫に就て	國枝 金三
繪を初める人へ	高 間 愨 七	風景畫の構圖に就いて	大野 隆徳
油繪を學ぶ初歩の人へ	横 井 禮 市	點景人物に就いて	正 宗 得 三 郎
制作に就いて	中 川 一 政	靜物畫を描くに就いて	横 井 禮 市
繪を描く氣持に就いて	林 非 禮 武	静物畫を描くに就いて	横 井 禮 市
繪の見方	山 本 一 政	人體畫に就いて	木 下 孝 男
制作問答	中 川 一 政	人物畫に就いて	長 谷 川 貞 雄
色彩問答	梅 原 龍 三 郎	内體と背景の關係の要訣	木 下 孝 男
構圖に就いて	小 田 隆 重	美しきポーズ	中 川 寛 治
大作的構圖と小品的構圖	和 田 英 克	材料と表現	小 田 隆 重
大作の用意と順序	鍋 井 英 之	油繪具の事	山 下 新 太郎
筆觸に就いて	鍋 井 英 之	油繪具に就いて	和 田 英 克
畫面の手ざばり	中 川 一 政	繪具の變色	和 田 英 克
画面の肌ざばり	田 邊 紀 元	油繪具の變色	和 田 英 克
バックに就いて	石 川 一 政	色の變色不変色に就いて	高 間 愨 七
繪の幅と仕上げとの關係	林 非 禮 武	私のパレットの公開	山 下 新 太郎
新傾向の技巧に就いて	中 川 一 政	油繪具の溶解油に就いて	山 下 新 太郎
風景畫	林 非 禮 武		知 治

素描習作に懇切無二の伴

デッサンの研究

普及版

定價金壹圓

送料市内十二錢・地方十八錢

四六版・口繪三十葉・清洒雅裝・大好評

本書はデッサンの教科書でも指導書でもない。本書はデッサンをかくの如く描くべしと教へないかはりに、諸君は諸大家の一言一句の中から、最も自由に、聰明に、デッサンについて、材料、技法知識、勉強法、などを自ら自在に活用して研究することが出来る。

立派な素描	森田 恒友
デッサンの價値	正 宗 得 三 郎
素描と環境	小 林 高 吾
素描としての素描	遠 山 五 郎
素描で用ゐる素描	小 杉 未 龍
素描の藝術	河 野 通 勢
素描に就いて	石 井 錦 三
素描の歴史	中 川 一 政
素描の技巧	梅 原 龍 三 郎
素描の材料	佐 藤 武 道
素描の構圖	山 下 新 太郎
素描の色彩	山 本 鼎
素描の表現	山 本 鼎
素描の練習	山 本 鼎
素描の発展	山 本 鼎
素描の研究	山 本 鼎
素描の習作	山 本 鼎
素描の指導	山 本 鼎
素描の解説	山 本 鼎
素描の問答	山 本 鼎
素描の練習	山 本 鼎
素描の発展	山 本 鼎
素描の研究	山 本 鼎
素描の習作	山 本 鼎
素描の指導	山 本 鼎
素描の解説	山 本 鼎
素描の問答	山 本 鼎

アトリエ社

東京・牛込・喜久井町三十四
電話東京六六〇二 電話牛込六四三二

社エリトア 四十三町井久喜區馬市京東 一二四六五牛話電・二〇〇六六京東管振

外 2000
お

普及版

セザンヌ畫集

美術千年の夢を破つた近代美術の先覺セザンヌの偉業、凡ゆる作家は彼の道を辿つて成長した。今日なほ、美術を語り、製作をなす者は先づセザンヌを學び、彼の藝術を咀嚼することから始まる。人物、風景、靜物、彼の鋭き觀察の結晶、その彼の藝術の全容を本集によつて究められよ。

四六二倍判・原色版四葉・寫眞版三十葉・セザンヌ又略傳

原色版		寫眞版	
沐浴の風	シャトー・ド・ラ・バニエ	自白の畫	白自畫
沐浴の風	シャトー・ド・ラ・バニエ	自白の畫	白自畫
沐浴の風	シャトー・ド・ラ・バニエ	自白の畫	白自畫
沐浴の風	シャトー・ド・ラ・バニエ	自白の畫	白自畫
沐浴の風	シャトー・ド・ラ・バニエ	自白の畫	白自畫
沐浴の風	シャトー・ド・ラ・バニエ	自白の畫	白自畫
沐浴の風	シャトー・ド・ラ・バニエ	自白の畫	白自畫
沐浴の風	シャトー・ド・ラ・バニエ	自白の畫	白自畫
沐浴の風	シャトー・ド・ラ・バニエ	自白の畫	白自畫
沐浴の風	シャトー・ド・ラ・バニエ	自白の畫	白自畫
沐浴の風	シャトー・ド・ラ・バニエ	自白の畫	白自畫
沐浴の風	シャトー・ド・ラ・バニエ	自白の畫	白自畫
沐浴の風	シャトー・ド・ラ・バニエ	自白の畫	白自畫
沐浴の風	シャトー・ド・ラ・バニエ	自白の畫	白自畫
沐浴の風	シャトー・ド・ラ・バニエ	自白の畫	白自畫
沐浴の風	シャトー・ド・ラ・バニエ	自白の畫	白自畫
沐浴の風	シャトー・ド・ラ・バニエ	自白の畫	白自畫
沐浴の風	シャトー・ド・ラ・バニエ	自白の畫	白自畫
沐浴の風	シャトー・ド・ラ・バニエ	自白の畫	白自畫
沐浴の風	シャトー・ド・ラ・バニエ	自白の畫	白自畫
沐浴の風	シャトー・ド・ラ・バニエ	自白の畫	白自畫
沐浴の風	シャトー・ド・ラ・バニエ	自白の畫	白自畫
沐浴の風	シャトー・ド・ラ・バニエ	自白の畫	白自畫

東京市牛込喜久井町三四

アトリエ社

振替東京六六〇〇二番
電話牛込六四二一番

定價一圓五十錢 送料市内十二錢・地方十八錢

83-486



1200501327941

事故本

落丁による欠ページ
ドグマ朝の支那の
ピキロルアル遠望の
シスエ風景の
セオボの男の肖像の
ゴオボの金銭の森の
以上の原色版ページ
複本・同本なし
2003.12.15. 発見

終